



Title	<実践レポート>札幌星園高等学校の進路探求学習・キャリア教育実践
Author(s)	宮浦, 俊明
Citation	公教育システム研究, 6, 79-93
Issue Date	2007-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/20519
Type	departmental bulletin paper
File Information	04-.PDF



<実践レポート>

札幌星園高等学校の進路探究学習・キャリア教育実践

宮浦 俊明*

目次

- 1 札幌星園高等学校の概要
- 2 札幌市立高等学校の4共通施策
- 3 札幌星園高等学校のキャリア教育
- 4 成果と展望

札幌星園高等学校の昼間部を中心としたキャリア教育は、平成13年度ごろから始まり、平成16年度に札幌市立高等学校の進路探究学習の一環として「進路探究アドバイザー活用事業」のモデル校になることによって大きく前進した。この年の進路未定者は激減し、就職希望者の就職率は100%になるという大きな成果を収めた。それは29名の生徒が札幌市民として4月から税金を納めるということである。前年度の就職者数は7名のみであった。

本校のキャリア教育の方法は、今後の定時制高校の1つの指針となり、進路未定者を減らしてニート・フリーターを出さないという社会的役割を果たすものと考えている。

本報告では、札幌星園高等学校が日々実践している進路探究学習を紹介し、皆さまのさまざまなご意見をいただければと思う。

1 札幌星園高等学校の概要

札幌星園高等学校は中央区の中島公園のそばで、近くを鴨々川が流れる、創立81年を迎えた定時制高校である。昼間部と夜間部があり、4学年4クラスで定員は640名である。

札幌星園高等学校の沿革

大正14年	札幌市立実業女学校として創立
昭和25年	札幌星園高等学校と改称
昭和48年	独立校舎設置(現在の校舎)
昭和55年	昼間部夜間部各2学級(定員640名)
平成11年	午後授業開講⇒改革へ

本校は平成11年ごろから、夜間部がカリキュラムを中心とした改革を始めた。現在は昼夜の生徒がともに学ぶ午後の「実践文化」(学校設定科目)、技能審査による学習の単位認定、高卒程度認定試験などを組み合わせ、3年生の半数が、いわゆる3年修業で卒業するようになっている。

入学してくる多くの生徒は何らかの課題を抱えており、以前のように就職しても勉強するという意欲を持って本校を選択した生徒はほとんどいない。教員には生徒一人ひとりへのきめ細かい指導が求められているが、生徒の置かれている環境は厳しく、一人ひとりの生活を案ずる日々である。

* 札幌星園高等学校長

本校を取り巻く課題

生徒の実態

- ・生徒の3割強がフリーターか無職として卒業することの反省
- ・中退者の増加
- ・不景気によりやがて仕事を見つけるだろうという希望的観測が困難
- ・生徒の気力や自己肯定感の低さ⇒就職してもすぐ辞める傾向を持つ

入学生徒の環境

- ・経済的に苦勞している生徒が多い（授業料免除の生徒が多い）
- ・学力に課題を持つ生徒が多い
- ・小中で不登校であった生徒やいじめを受けた生徒が比較的多い
- ・ハンディキャップを持つ生徒がいる（特別支援教育の課題）
- ・家庭内の課題

平成18年度「実践文化」について

昼・夜間部教務部

科目名	登録者数		合計	単位修得者数		合計	備考
	昼間部	夜間部		昼間部	夜間部		
体験的食の文化	28	0	28	17	0	17	
アート入門	30	3	33	27	0	27	
ボランティア活動-1	5	0	5	2	0	2	
コミュニケーション・スキル講座	37	1	38	20	0	20	
英会話入門	12	11	23	6	2	8	
Word入門	13	4	17	8	2	10	
農業実習入門	6	8	14	6	7	13	
ボランティア活動-2	8	10	18	4	5	9	
就職実践		6	6		6	6	夜間部のみ受講
陶芸入門	8	2	10	8	1	9	
書のたのしみ入門	6	9	15	3	8	11	平岸高校1
合計	153	54	207	101	31	132	

2 札幌市立高等学校の4共通施策

札幌市立高等学校の改革は平成11年ごろから本格化した。平成13年5月に教育改革推進協議会により「新世紀を展望した魅力ある札幌市立高等学校のあり方について」の第一次答申が出された。この答申の中に、「進路探究学習の積極的導入～望ましい勤労観・職業観に裏付けられた将来の社会的な自立や生き方を考えることができるよう、これまで以上に充実した生徒の進路探究のための学習を工夫する必要がある。」というキャリア教育の項目が入った。

第一次答申を受けて、平成15年2月に「札幌市立高等学校改革推進計画」が策定され、4共通施策が決定された。その1つが進路探究学習の導入であり、キャリア教育の実践が始まった。現在、進路探究セミナー（第1学年対象）と職場体験学習（全日制）・インターンシップ（定時制）の2つの柱を中心に実施している。今年度で3年が経過し、検証と評価の時期を迎えている。

札幌市立高等学校の4つの共通施策

- ・進路探究学習の導入
- ・国際教育の充実
- ・情報教育の充実
- ・カウンセリング体制の充実

3 札幌星園高等学校のキャリア教育

本校のキャリア教育は教員の問題意識から始まった。平成 13 年度の卒業生 71 名中 28 名が進路未定者という状態だった。そのうち 7 名は就職未定、21 名は就職活動もせずに卒業した。この現状に関して、進路部長の須貝則昭教諭を中心とした進路指導部が、就職率を上げることや進路意識の醸成という課題に取り組み始めた。

この課題は本校の生徒にとっては進路だけの問題ではなく、不登校傾向の強い生徒、学校になじめない生徒、目的意識の薄い生徒、アルバイトや遊びなどに気持ちが向きすぎる生徒たちが星園での高校生活に対する意識を変えるという課題であった。この課題が上記の第一次答申の「～望ましい勤労観・職業観に裏付けられた将来の社会的な自立や生き方を考えることができるよう～」というキャリア教育に沿った本校の進路探究を始めさせた。

(1) 進路探究学習の歩み

平成 13 年度頃から、進路講話や希望者に職場見学・体験を始める。平成 15 年の総合的な学習の時間が始まると、その時間は進路意識を向上させ、1 年生からの段階的な進路探究学習（キャリア教育）の時間となる。本校では総合的な学習の時間を JAM と名づけるが、この時間をどのように使うかで、その時の教員集団の意識レベルを見ることが出来る。受験に関係ないとし、現代社会や必修クラブと同様な運命をたどるとした教員も多かった。

進路探究学習（昼間部）の基本的な考え方

- ・ 進路探究の土台としての自己肯定感を醸成する。*(定時制の生徒の特性を考慮)*
- ・ 自分自身の生き方を考え、自分の進路を切り開く力を身につける。
- ・ 健全な勤労観・職業観を育成し、進路目標を設定する。
- ・ 就職率を高め、フリーター・ニートをゼロにする。
- ・ 自立した札幌市民を育成する。 *上記を目的とした各プログラムは平成 13 年度から段階的に試行平成 16 年度以降本格実施。

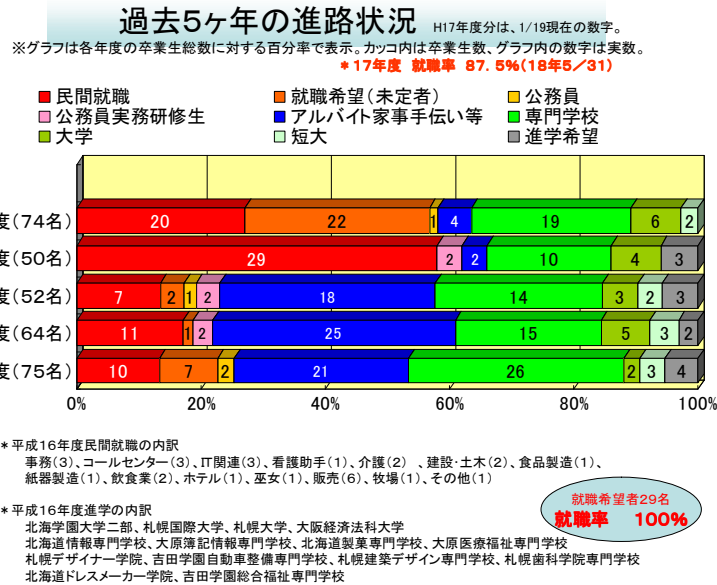
本校は、学校生活そのものに慣れていない多様な入学生が 4 月に集まるが、その人間関係は極めて不安定である。生徒一人ひとりが安心し、学校が居場所となることが求められた。また、否定的な自己像を持つ生徒が多く、自分の進路を考える際、自己肯定感の醸成は不可欠であった。このため、1 年の JAM の時間に構成的グループエンカウンターを入れた。担当したのは、数学の教員である。教育相談に関心を持つ教員が自ら研修を受けて始めるのである。キャリア教育の実践の輪が広がり始める。

平成 15 年度より 3 学年全員参加の 3 日間のインターンシップが始まる。

平成 16 年度に「進路探究アドバイザー活用事業」のモデル校に選ばれる。事業受託企業のキャリアバンクから 1 名のアドバイザーが本校に常駐し、キャリアカウンセリングを始める。また、キャリアバンクの協力を得て、進路探究モデルプランが作られた。JAM の時間を中心に、発展的な進路探究学習が展開されるようになった。就職希望者が増え、進路未定者は大幅に減り、就職率は大幅に向上した。だが、この事業は 1 年で終わる。

平成 17 年度を迎えて、最大の課題はキャリアカウンセラー（アドバイザー）の派遣の打ち切りであったが、札幌市教育委員会は前年度の進路未定者の大幅な減少という本校の画期的な成果を踏まえ、札幌市独自の予算でキャリアカウンセラーの派遣事業を継続した。ただし、週 1 回程度、必要に応じての派遣となった。この時、札幌市勤労青

少年ホーム Let's 中央の松田考氏がキャリアカウンセリングを手伝ってくれることになった。松田氏自身も Let's 中央で同様なカウンセリングを試みていたが、これは高校から始めなければならないと強く思い、HP で星園高校の実践を知り本校を手伝うことになったのである。



市教委の支援、外部機関との連携によって、カウンセリング体制が継続することになった。キャリア教育の実践という共通の目標を有してのキャリアバンクや Let's 中央の外部機関との連携は星園高校を変えるものであった。定時制高校の多様な生徒への多様な指導がシステムとして機能するという事は戦後教育の主要な理念である平等主義という教職員の意識を変えるものである。また、学力は何かという問いを通して、生きる力を検証することでもある。

集団の人間関係の中での生徒一人ひとりの成長をはかる社会性の伸張は現在の学校教育の大きな課題である。キャリア教育は人としての心の成長をはかるものであり、それゆえ実践の中での担任の役割もおのずと見えてくる。教員各々が役割を自覚し、チームを組んでの仕事がキャリア教育を成功させる基本となる。

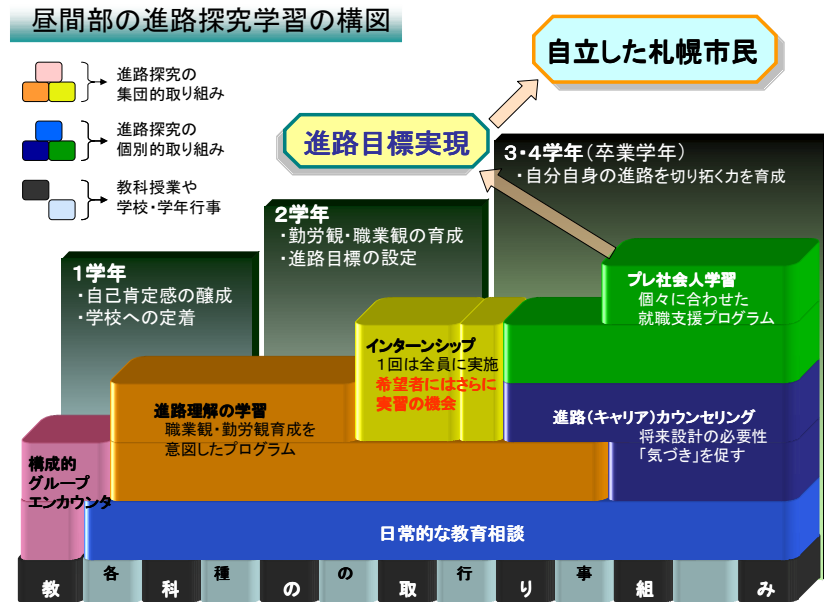
(2) 進路探究プログラムの構図

進路探究プログラムは 1 学年からの発展的な学習プログラムである。その基本は本校の生徒の実態を踏まえ、学年を追って段階的に生徒の成長をはかり、進路未定のまま卒業はさせないプログラムである。目標は生徒一人ひとりの自立である。

進路探究学習の中心となる時間は総合的な学習 (JAM) と LHR である。1 学年は約 45 時間、2 学年は約 55 時間、3 学年は約 36 時間のプログラムを組んでいる。

1 学年の中心になる課題は自己肯定感の醸成であり、構成的グループエンカウンターが主要な方法になる。2 学年はインターンシップである。事前指導が生徒を大きく成長させるプログラムになる。3 学年は就職セミナー、自立セミナーなどの卒業後の自立に向けた実践的プログラムになる。4 学年は就職セミナーが中心になる。

進路探究プログラムの構図は以下のとおりである。



① 総合的な学習の時間の活用

平成15年度から始まる新教育課程の大きな特色の1つとなった総合的な学習の時間を本校はJAMと名づけ、進路探究学習の時間と位置づけた。翌年、「進路探究アドバイザー活用事業」によるキャリアバンクとの連携によってJAMの内容は充実した。

下記にJAMが終了した時の3学年の生徒の感想を二つ紹介する。(本校では3学年にもJAMを15年度より試行として実施し、全員インターンシップを経験させた。)

A 女子生徒 「1年間JAMをやって、いままでわからなかったことなどがわかった。たとえばフリーターとちゃんと職に就いたときの違いなど、他にもさまざまなことがわかった。インターンシップでもいろいろ発見したことがあった。今は専門学校に進学するか就職するかで迷っているのでJAMで学んだことを活かして夏休み前くらいまでにははっきりした進路を決めたいと思っています。」

B 女子生徒 「この1年間の感想は“すごかった”。やっぱりインターンシップがすごかった。今までにできないこともさせてもらいました。インターンシップで行ける場所もアルバイトでは高校生は不可とか、そ〜ゆ〜ところだったのですごうれしかった。今までに味わったことのない緊張感や充実感を体験できました。そして何より達成感!!! 周りから見たら「たった3日間でしょう」って思うと思うけど全然違う!!! 「たった3日間」かもしれないけどその中で学ぶことはたくさんあったし、やりとげたってゆう気持ちは絶対ある!!! プレゼンでは味わいたくない緊張感も味わえたし(笑) インターンシップ以外のJAMの時間も楽しかった!!! いろいろなプリントをやっておもしろかった!!! JAMでは本当に“すごかった”“学んだ”って感じでした。」

以下に JAM の年間計画の一部を参考として紹介する。

進路探究学習のプログラム化 — 総合的な学習の時間の活用 —

活動項目	内 容	評 価
(1)JAM (総合的な学習の時間) へのアドバイス・企画・講師派遣(16時間) (これらのプログラムをもとに「進路探究学習モデルプラン」が作成された。)	本校で1～3学年を対象に実施しているJAMの中の、特に職業観育成プログラムにおいて特に下記の項目について協力して実施した。 ①コメントあてゲーム ②人生ゲーム ③10年後の私 ④ソクラテスマーケティング ⑤JOBMAP 大作戦 ⑥自分のタイプを知ろう ⑦人生航海図	①キャリアカウンセリング的発想に基づいて開発されたプログラムを、学校の実情に合わせて導入することにより、生徒の「振り返り」などから判断して進路意識向上に大きな寄与があった。 ②本校としては、生徒の「気づき」を重視するカウンセリング的な発想を学ぶことができ、今後の進路探究学習の方向性に大きな示唆を受けた。 ③特に1学年では他のエンカウンタープログラムと合わせて休退学者等の減少効果が認められた。
(2)就職セミナーへのアドバイス・企画・講師派遣(3時間)	①就職希望者を対象としたセミナーにおいて、面接練習を実施した。また、面接練習のための実践的なマニュアルが作成された。 ②就職試験開始後は、試験直前に生徒ごとに個別の面接練習を実施した。	①企業での実際の面接に基づいた極めて実践的な面接練習ができ、就職率向上に相当程度の寄与があった。 ②本校としては、面接練習の方法を学ぶことができ、今後とも活用できるマニュアルが完成した。
(3)4学年全員・3学年希望者を対象とする就職関連施設見学コーディネート(半日×2回)	フリーター化を防ぐため、卒業後に就職相談や求職活動するための機関を生徒に認知させることを目的に以下の施設見学を実施した。 ①ジョブカフェ・札幌学生職業センター見学(7月2日) ②ハローワーク札幌北・札幌高等技術専門学校見学(8月26日)	就職支援機関の存在を認知させるとともに、特にフリーター指向の強い生徒に対しては、就職意欲の向上などの効果があった。
(4)インターンシップ 職場開拓・事前指導等	生徒が希望するインターンシップ実習先の開拓や、ビジネスマナーなどの事前指導	実践的なビジネスマナーを生徒に学ばせることができた。
(5)キャリアカウンセリング(7月～2月)	①3・4年卒業予定者全員(47名)を対象とし、授業時間帯に派遣アドバイザーによる個別カウンセリングを実施した。原則的にアドバイザーは週3日間は学校に常駐とし、休み時間や放課後の時間帯にも生徒と接する機会がもてるよう配慮した。 ②平均で1人あたり2回程度のカウンセリングを実施しており、多い生徒(フリーター指向の強い生徒、不適応的傾向の強い生徒など)では4・5回実施した生徒もいた。 ③別表に示す以外にも、放課後の時間帯に任意のカウンセリングを相当回数実施した。	①フリーター指向の強い生徒とも回数を重ねてカウンセリングを実施し、就職に意識を向けさせることができ、また就職決定に至ったケースがかなりあった。 ②就職の意思がある生徒でも、「何がしたいかわからない」、「求人票を見てもやりたい仕事がない」という生徒が多かったが、生徒の潜在的な志向を引き出し、職種を提案することなどにより、就職決定に至った生徒が多かった。 ③全体として、フリーターを大幅に減らすとともに、就職決定者の大幅増加を実現することに多大な寄与があった。
(6)模擬面接(キャリアバンク社内)(半日×2回)	2回にわたり、就職試験に向けて、生徒がキャリアバンク社に一人ずつ出向き、人事担当者による本番さながらの模擬面接を実施した。	生徒は初めての場所でまったく知らない人による面接練習を体験し、相当に緊張して臨んだようである。結果的に、就職試験には大いに役立ち、多くの合格という成果を得た。

(7) 教員を対象とするカウンセリング研修 (6月11日)	アドバイザーと教員との共通理解のため、カウンセリングの基礎理論、具体的な方法論、留意点などについて学び、カウンセリングのロールプレイングも実施した。	アドバイザーがどのような観点でカウンセリングを行うのかなど共通理解が得られた。また、教員がカウンセリングにあたる場合に留意すべき点についても学ぶことができた。
----------------------------------	--	---

* ソクラテスマーケティングは社会人を7から8名程度招き、生徒10人程度のグループと対話形式により、一人の人間の生きてきた過程を題材に人生を考えさせるセッションである。

② カウンセリング体制

キャリア教育の要はキャリアカウンセリングである。では、教員はカウンセリングができるかという点と難しい。教員は生徒の話聞くが、指導するのが仕事である。カウンセリングと指導を一人の教員が両立させるのは難しいと考える。キャリアガイダンスとキャリアカウンセラーの違いを明確にしてキャリア教育を進めることが重要である。キャリアカウンセリングは外部機関との連携やアドバイザーの常駐が望ましい。

本校は平成16年度の「進路探究アドバイザー活用事業」によって、キャリアバンクからアドバイザーが派遣された。アドバイザーが生徒一人ひとりのカウンセリングを進めて進路意識を高めた。この年の進路未定者は激減した。

平成17年度より、アドバイザーをお願いしているLet's中央の松田孝氏はカウンセリングに関して「できないという生徒に、小さな成功体験を大事にし、積み重ねていくようにしている」と述べている。

今年度(18年度)より、キャリアバンクに代わって日本マンパワーの中村研一氏に週1回のカウンセリングをお願いしている。中村氏は「本校の生徒が働くことについての想像力が乏しい、働く人の姿を見せることや話を聞く機会を増やすことが大事」、また「家庭環境が厳しい生徒が多いので、より多くのサポートが必要である。社会への準備としての第一歩の大切さを卒業までに身につけさせたい」と述べている。

教員ができないことをアドバイザーが担当し、それを受けて教員が生徒一人ひとりにキャリアガイダンス(指導)していくことがカウンセリング体制を支える基本となっている。

③ 外部機関との連携

教員はそれぞれの教科の分野においてかなりの専門知識を持ち、毎時間の授業を組み立て、生徒の意欲を喚起し学力を高め、生徒一人ひとりを評価している。また、生徒の話聞き、さまざまな指導をしている。しかし、現代の社会はさらにさまざまな知識・スキルを高校教育に求めている。教員がすべてである時代は終わったのである。外部との連携によってより効果の上がること多い分野があることを教員が謙虚に自覚することが、外部機関との連携が成功する第一歩である。

札幌星園高校昼間部はキャリア教育を学校運営の方針として、生徒一人ひとりに将来の社会的な自立や生き方を考えることができるよう、総合的な学習の時間(JAM)を中心に外部機関との連携を図ってきた。平成16年度の「進路探究アドバイザー活用事業」における進路探究学習のモデルプランの作成(キャリアバンク)、カウンセリング体制の連携(Let's中央、キャリアバンク、日本マンパワー)、短期・長期のインターンシ

ップによる企業との連携、ソクラテスミーティングの社会人、専門学校の講師による講座、年金・保険セミナー、司法書士による法律セミナー、その他の進路探究セミナーなどさまざまな実践を展開している。

外部機関との連携 — カウンセリング体制 —

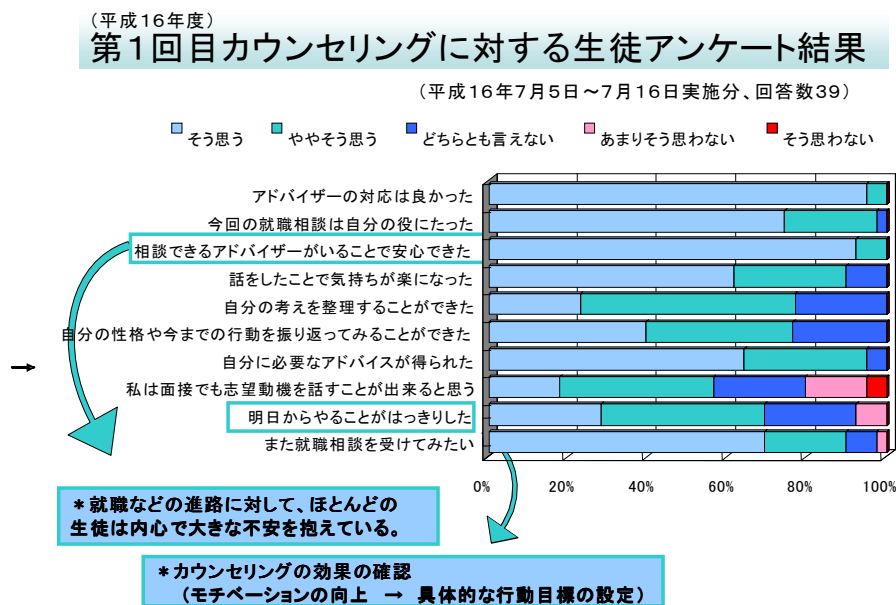
平成 16 年度 進路探究アドバイザー活用事業
 3・4年卒業予定者全員（47名）を対象とし、授業時間帯に派遣アドバイザーによる個別カウンセリングを実施した。原則的にアドバイザーは週3日間は学校に常駐とし、休み時間や放課後の時間帯にも生徒と接する機会がもてるよう配慮した。

平成 17 年度・18 年度
 活用事業は終了したが、前年度の結果を踏まえ、市教委が定時制に対して特別な予算を組み、週1回程度のアドバイザー派遣が可能となる。
 また、星園高校の取組を見て、Let's 中央との連携が始まり、週3回程度生徒のカウンセリングをお願いしている。

4 成果と展望

(1) 生徒の意識の変化

進路未定者の激減が生徒の意識の変化を端的に物語る。生徒の将来計画の取組に向けてのさまざまなプログラムの中で、生徒一人ひとりの関心や意欲が向上している。1学年からの生徒の実態に応じた進路探究学習の発展的なプログラム開発が外部機関との連携によって進んだことが大きい。その中で、キャリアカウンセリングの果たした役割は大きい。下記の生徒アンケートはカウンセリングを担当するキャリアアドバイザーの役割の重要性を示している。



(2) 教職員の意識の変化

学校が1つの組織として共通の目標を持ち、校内の組織がその達成のために働くこ

とは当然のことである。分掌・学年は共通の目標達成のためのプログラムを組み、他分掌・学年と連携し、またチームとして一体となって動くことは組織としては当然である。さらに、外部機関との連携によって、大きな教育的な効果が上がることも当然である。当然であるという共通の意識を持つために教職員の話し合いの積み重ねが必要である。そのためには小さな試みの、小さな達成感を大事にして、1つの目標を学校全体の目標にしていくリーダーシップの役割は非常に大きい。

学校の組織がチームワークで動けるようになってくると、自ずとリーダーは見えてくる。組織がマネジメントで動くためにはリーダーを育てる必要がある。リーダーが議論し切磋琢磨する場の設定は現代の学校には必要であると思う。また、若い教員が仕事はチームとするもの、最大の研修場所は現場であることも実感する場でありたいと思う。

本校のキャリア教育の実践はまだ多くの課題があるが、教職員の意識の変化が成功の決め手である。教職員は手応えを感じながら更なる試みに挑戦している。キャリア教育・進路探究学習は教職員の、職業としての（プロとしての）力量を高めている。

(3) 今後の展望

本校のキャリア教育は総合的な学習の時間（JAM）を中心に展開し、カリキュラムの中に位置づけられている。今後、学校設定科目の中にも生徒の成長に沿ったキャリア教育の科目設定が考えられる。

教科指導においても、教員は生徒一人ひとりの将来を考えさせ、社会的な自立を育てる指導の視点を共有する姿勢が求められる。

クラスは担任を中心としたチームで運営する視点が重要である。多様な生徒が増えたから、クラスを20人にするのは必要だが、それだけでは根本的な解決にはならない。

外部機関との連携はキャリアカウンセリングの常駐を目指して一層拡大していきたい。本校の目標に沿った連携が学校のシステムとなるよう機能させていきたい。また、進路未定のまま卒業する生徒に対するケアは外部機関との連携が欠かせない。中退する生徒に対しても同様なケアが必要である。

現代の社会が学校に望む課題は大きい。家族、地域の教育力が過去とは変わってきている以上、学校も変わらざるを得なく、人々の学校への期待感も大きい。キャリア教育の実践には学校を変える力がある。しかもキャリア教育の課題は定時制高校に限らずすべての高校にとって普遍的である。

平成18年度 第1学年 JAM年間計画 札幌星園高校昼間部
(月曜日2校時実施)

月	日	テーマ	時間	項目	内容	担当
4	17	オリエンテーション	1	JAMで学ぶこと	3年間を見通したJAMの概要について説明	学年
	24	学校に慣れよう	1	エンカウンター	肩もみエンカウンター、アウチ	澤尻
5	1	グループづくり	1	エンカウンター	宿泊研修に向けたグループワークのトレーニング	学年
	8		澤尻			
	15		学年			
	17		アウチ、バースデーリング、みんなオニ			澤尻
	18		アドジャン、無人島SOS、進化ジャンケン			(企画)
	22		宿泊研修振り返り			学年
	29		1	ジャンケン手の甲たたき、肩もみ、	澤尻	
6	5	自己表現とコミュニケーション	1	自分を分析する	YG検査	学年
	19		1	エンカウンター	みんなオニ、せーの、木の中のリス	澤尻
	26		1		サイコロトーキング	澤尻
7	3	創造的共同作業	1	行灯作製	クラス単位で役割分担をして行灯を作製する	学年
	10		1			
	11		1			
	12		1			
	13		1			
	14		1			
8	21	リフレッシュ	1	エンカウンター	サイコロトーキング	澤尻
	28		1	コメントあてクイズ	ゲームを通じて職業探究のきっかけをつくる	学年
9	4	社会の中で生きていくために	1	人生ゲーム(フリーターと正社員)	ゲームを通じてフリーター問題について考えさせる	
	11		1	10年後の私	未来の自分を想像することで、現在の自分の課題を考える	
	25		1	YG検査振り返り		
10	11		2	ソクラテスマーケティング	いろいろな職業人との対話を通じて職業への関心を高めさせる	
	16	JOBMAP大作戦	1	興味のある仕事を探し、自分のJOBMAPを作ろう	本校生徒に適する仕事リストから、自分の関心に応じて仕事を分類し、自分の関心に応じてMAPを作成	学年
	23		1	仕事カードを作ろう	分担して知らない仕事の内容を調査しカードにまとめる	
	30		1			
11	6		1	職業大辞典を作ろう	カードを集めて星園版職業大辞典をつくる	学年
	13	自分の進路	1	自分の進路を考えよう	自分の進路を現実的に考えてみる	
	27		1	職業について考える		
12	4		1	卒業までの行動計画	今から卒業までの進路を目標とする行動計画を立てる	学年
	11	気づきの練習①	1	聴くということ	傾聴トレーニング	澤尻
	18		1	気になるあなたへの手紙	ロールレーリングによる他者と自己の肯定的「気づき」	澤尻
1	22	社会の中の自分	1	個性と社会(1)	自分を知り、それを社会のなかにどう活かしていくか	外部
2	29		1	個性と社会(2)	自分を知り、それを社会のなかにどう活かしていくか	外部
2	5		1	個性と社会(3)	自分を知り、それを社会のなかにどう活かしていくか	外部
	7	インターンシップ事前学習	2	インターンシップ全校発表会	2年生のインターンシップ発表会に参加	学年
	26		1	インターンシップ希望調査	次年度実施するインターンシップに向けた希望調査	
3	5		1	気持ちの良い挨拶をしよう	技術のとしての挨拶の方法を習得	
	12		1	進路最前線	卒業生の進路状況を認識させ自分なりの目標を考えさせる	
	19	振り返り	1	JAMのまとめ	1年間を通しての振り返りと来年度の課題	
合計					45	

平成18年度 第2学年 JAM年間計画 札幌星園高校昼間部
(水曜日3校時実施)

月	日	テーマ	時間	項目	内容	担当
4	12	オリエンテーション	1	JAMで学ぶこと	インターンシップを中心とする今年度のJAMの内容の確認、およびインターンシップ希望調査	学年
	19	未来の自分(1)	1	進路最前線	17年度の卒業生の進路状況の確認と自分の進路の展望	学年
	26		1	人生ゲーム ～欲しいものは何だ	お金で買える物を通してこれからの自分の人生をシミュレーション	
5	10		1	自分のタイプを知ろう	自分が気づいていない自分の発見(進路適性検査)	
	17		1	30歳の自分からの手紙	大人になった私から現在の自分へのメッセージ	
	19	身体と向き合う	2	身体のパラシとエクササイズ(1)	①やさしい解剖生理学、②むくみ・老廃物解消法	* 専門学校派遣
	26		2	身体のパラシとエクササイズ(2)	①関節のむくみ、②姿勢の良さで印象が変わる	校派遣
	31		1	身体とバランス振り返り		学年
6	14	未来の自分(2)	1	人生航海図を描いてみよう(1)	これからの人生を想像しあるべき自分を考える	学年
	21		1	インターンシップ実習先確定作業		
	28		1	人生航海図を描いてみよう(2)	これからの人生を想像しあるべき自分を考える	
7	5	インターンシップ 事前学習	1	他校のインターンシップに学ぶ	VTRとチェックテスト	学年
	12		1	インターンシップ実習先確定作業		
8	23		1	実習先調査(1)	実習先の内容や交通機関などの確認	
	30		1	自己紹介文作成①と写真撮影	事業所へ提出する自己紹介文の作成	
9	13		1	身だしなみ・マナーチェック	チェックリストで各自が確認	中村AD
	20		1	実習先調査(2)	実習先の内容や交通機関などの確認	
	27		2	ビジネスマナーを学ぼう	実習に必要なマナー練習と身だしなみチェック	
10	4		1	実習確認書で必要事項確認	各自が担当教員と確認する	学年
	11		1	インターンシップ1週間前チェック	身だしなみや準備するものなどの確認	
	16		1	インターンシップ最終確認	心構え・交通機関などの最終確認	
	17	2	インターンシップ出発式			
	18	インターンシップ	4	インターンシップ第1日目	各事業所で実習(9:00~16:00)	学年
	19		4	インターンシップ第2日目		
	20		4	インターンシップ第3日目		
	23	インターンシップ	2	感想文、アンケート	各事業所への礼状作成	学年
	25		1	感想文作成		
11	1	インターンシップ まとめ	1	報告書作成(1)	パワーポイントによる報告書作成	学年
	8		1	報告書作成(2)		
	15		1	報告書作成(3)		
	29		1	報告書作成(4)		
12	6		1	報告書作成(5)		
	13	自分の未来(3)	2	進路別説明会	就職・専門学校・大学短大別の説明会	専門学校 連合会
1	17	インターンシップ 体験発表	1	発表会練習		学年
	24		2	インターンシップ学年内発表会	2学年内で全員が発表	
2	7		2	インターンシップ全校発表会	全校生徒参加での発表会	学年
	21	自分の未来(4)	1	進路希望調査 10年間の人生設計	自分の進路を具体的に考える	
3	14	振り返り	1	JAMのまとめ	1年間を通しての振り返りと来年の課題	
合計				55		

* 日本カイロプラクティックドクター専門学校

平成18年度 第3学年 JAM年間計画表 札幌星園高校昼間部
(金曜日2校時実施)

月	日	テーマ	時間	項目	内容	担当
4	14	オリエンテーション	1	JAMで学ぶこと	1年間のJAMの内容の確認 進路希望調査	学年
	21		1	進路最前線	本校卒業生の進路状況と今後の進路スケジュール	
	28	コーワーキング	1	エンカウンター	見学旅行に向けたグループワークトレーニング	
5	12		1			
	19		1			
	6		1	見学旅行振り返り		
	16	就職セミナー	1	高卒就職状況	最近の高校卒業生の就職状況を知る	
	23		1	THE求人票	求人票をみよときのポイントは何か	
	30		1	自分発見の旅に出よう	自分自身の棚卸	
7	7		1	THE履歴書	履歴書を書くときのポイントと練習	
8	18		1	常識力UP大作戦(1)	SPI模擬試験などによる筆記試験対策	
	25		1	THE面接	想定質問などを通じて面接のポイントを理解させる	
9	1		1	面接の練習	実際の面接を再現して面接技法を学ぶ	
	15		1	SPI模擬試験		
	22		1	THE就職支援機関	就職をサポートしてくれる機関や制度について知る	
10	6		1	常識力UP大作戦(2)	SPI模擬試験などによる筆記試験対策	
	13	1	求められる人材像(1)	面接試験などから窺われるポイント		
	20	1	求められる人材像(2)	調査データ～企業はどんな人材を求めているか		
	27	1	常識力UP大作戦(3)	SPI模擬試験などによる筆記試験対策		
11	10	自立セミナー	1	札幌一人暮らしのマナー学(1)	札幌市内で快適な一人暮らしをするために具体的なデータに基づいてシミュレートする	
	17		1	札幌一人暮らしのマナー学(2)	札幌市内で快適な一人暮らしをするために具体的なデータに基づいてシミュレートする	松田ad
	29		2	年金セミナー	年金の仕組みについて自分の問題としてとらえる	外部派遣
12	8		2	法律セミナー	悪徳商法などから身を守る方法を学ぶ	外部派遣
	15		1	保険セミナー	健康保険などの仕組みについて学ぶ	学年
1	19		1	札幌の若者の生活は？	札幌市の若者の生活の実態と問題点	松田ad
	26		1	常識力UP大作戦(4)	SPI模擬試験などによる筆記試験対策	学年
2	2	1	公的支援の常識学	25歳の自分がトラブルに巻き込まれたときの対処法	松田ad	
	7	振り返り	2	インターンシップ全校発表会	2学年の発表会に参加	学年
	9		1	出合い～計画された偶然性		
	23		1	JAMのまとめ	1年間を通しての振り返り	
3	2		1	常識力UP大作戦(5)	SPI模擬試験などによる筆記試験対策	
	9		1	進路状況・進路希望調査		
	16	1	この一年をどう過ごすか	4年生に向けてどう過ごすか、考えを整理する		
		合計			36	

札幌星園高等学校の進路探究学習・キャリア教育実践

平成18年度 第4学年 「CC(CareerCounseling)タイム」年間計画表 星園高校屋間部

月	日	テーマ	時間	項目	内容	担当	備考	
4	13	オリエンテーション ガイダンス(1)	1	CCタイムの内容 奨学金について	・校外内の担当者紹介 ・CCタイムの趣旨、年間計画	学年 松田ad	メール登録、SS ルーム使用法	
	20	ガイダンス(2)	2	過去の実績 進路カレンダー	・卒業生の進路と決定に至る過程 ・就職、進学の年間スケジュール	学年		
	27	自己省察 初期カウンセリング	2	セルフデータベース	・過去の自分、いまの自分の棚卸し	学年		
5	18		2	常識力UP大作戦① 進路カウンセリング	・SPI模擬試験他による試験対策 ・個別抜き出しでカウンセリング	学年		
	25		2	常識力UP大作戦② (職)各業界の体質 (学)推薦・AO・一般入試	・SPI模擬試験他による試験対策 ・分野毎の雇用傾向について ・各形式の入試について	学年 松田ad 学年		
6	1	進路セミナー 進路カウンセリング	2	(職)求人動向について (学)小論文講座	・求人表の読み方と求人傾向 ・小論文の実例	学年 松田ad		
	15		2	常識力UP大作戦③ (職)履歴書講座	・SPI模擬試験他による試験対策 ・志望動機欄の実例	学年 松田ad		
	29		2	就職支援機関 専門学校の種別	・ジョブカフェ、ハローワーク、Let's ・専修、各種学校、高等技術専門 学院	松田ad 学年		
7	6	学年進路行事	4		・ジョブカフェ、ヤングハローワー ク、高等技術専門学院見学	学年	・ジョブカフェ登録	
8	24	進路セミナー 進路カウンセリング	2	求人票、履歴書の検討 面接のポイント	・雇用条件等を確認 ・志望動機を中心に	松田ad 松田ad	学年は生徒の個別 相談	
9	14		2	求人票、履歴書の検討 面接練習 常識力UP大作戦④	・雇用条件等を確認 ・動機とマナーを中心に ・SPI模擬試験他による試験対策	松田ad 学年		
	21		2	常識力UP大作戦⑤ 面接練習(職・学)	・SPI模擬試験他による試験対策 ・模擬面接	学年	松田adは個別カウ ンセリング	
10	5		2	常識力UP大作戦⑥ 面接練習(職・学)	・SPI模擬試験他による試験対策 ・模擬面接	学年	松田adは個別カウ ンセリング	
	12		2	常識力UP大作戦⑦ (学)志望理由書	・SPI模擬試験他による試験対策 ・理由書下書き	学年	松田adは個別カウ ンセリング	
	19		2	常識力UP大作戦⑧ 面接練習(職・学)	・SPI模擬試験他による試験対策 ・模擬面接	学年	松田adは個別カウ ンセリング	
11	2		2	(職)合同面接会準備 (学)願書点検	・概要説明、模擬集団面接① ・理由書個別点検	学年 松田ad		
	9		2	(職)合同面接会準備 (学)願書点検	・模擬集団面接② ・個別点検	松田ad 学年		
12	16		個別カウンセリング	2	個人別対応	(職)、(学)とも、個々人の事情に合 わせた取り組み	松田ad 学年	
	30			2	個人別対応	(職)、(学)とも、個々人の事情に合 わせた取り組み	松田ad 学年	
12	7		2	個人別対応	(職)、(学)とも、個々人の事情に合 わせた取り組み	松田ad 学年		
	14		2	個人別対応	(職)、(学)とも、個々人の事情に合 わせた取り組み	松田ad 学年		
1	18	まとめ	2	以降のキャリアカウンセ リング	・卒業期の心構え ・家庭学習期間の対応	松田ad 学年		

モジュール2-③ ソクラテス・ミーティング
モジュール6-③

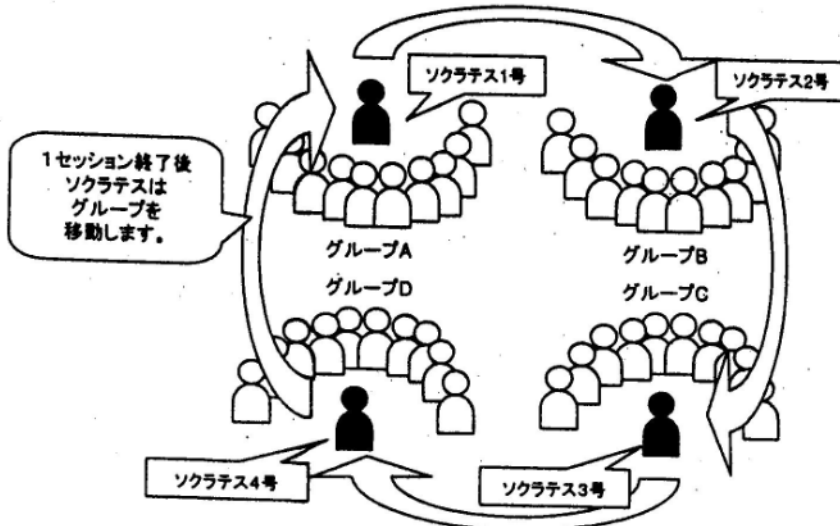


■ねらい 職業人との対話により、「進路」への関心を高めます。
また、「質問すること」を意識させることで、コミュニケーション能力を育みます。

■時間 2時間

■準備 講師（職業人）4名・生徒用説明資料・質問カード
※このプログラムでは講師をソクラテスと呼びます。先生も参加するとよいでしょう。

- 進め方
- ①クラスを4グループに分け、それぞれのグループにソクラテス（講師）が出向き対話します。（各ソクラテスはソクラテス1号・2号・3号・4号と呼ぶ。）
 - ②1回のセッションは15分。ソクラテスは1セッション終了後、グループを移動し合計4回のセッションを行います。
 - ③1回のセッションではソクラテスが7～8分間話をし、その後対話に移ります。
 - ④ソクラテスは原則として、自分の高校時代、高校卒業10年後、20年後について話します。
 - ⑤生徒には質問カードを4枚持たせ、4セッションの中で最低2枚を使用して質問をさせます。その質問にソクラテスが答える形で対話を進めます。
- ※「ソクラテス・ミーティング」は職業講話のアレンジとして企画しました。
※講師自身の経歴を書いたフリップを持たせ、話をすると対話しやすいと思います。
※生徒が講師の経歴を基にした質問を予め講師に伝えておく方法も考えられます。



札幌星園高「アドバイザー」制度

定時刻の昼間部がある札幌星園高校(官備朝校長)が二年前から導入している「進路アドバイザー」が、成果を上げています。同校昼間部はアドバイザー配置前は三割ほどが進路未定のまま卒業していたが、配属後は、進路未定者は大幅に減っている。(山本盛)

◆モデル校指定
札幌市内には、市立の定時制高校が四校あるが、同校は昼間部の定時制普通科を持つ唯一の市立高だ。社会人が多い夜間部とは違い、昼間部の生徒は中学時代、学校生活になじめなかったり、不登校だったりして「全日制の進学を断念した生徒が多い」と同校校長教頭は話す。生徒の進路指導が長年の課題で、四年前からインターンシップ(就業体験)を受けさせたり、インターネット

進路未定者が大幅減



希望者はほぼ全員就職

や雑談で求人情報を調べ入れさせた。そこでできる進路指導。フリーターや仕事に就かない若者が社会問題と「進路探究学習」に力をなす中、札幌市教委でも

三年前から生徒に勤労観や職業観を養うキャリア教育の検討に着手。その一環として二〇〇四年度にアドバイザーとして札幌星園高に導入された。就職した三千八百名が就職を果たした。これまで

初年度は人材派遣会社の社員が巡回、進路指導者として卒業を卒業させた三、四年生を対象に一人ずつ二時間の進路相談を実施した。進路が決まるまで継続してサポートするため、五回以上の面談を受ける生徒もいた。進路指導の教員が授業の合間や放課後に行っていた従来の面談とは違い、進路探究学習の一環として、一泊二日と一泊三日と一泊四日とが大きな特徴だ。札幌星園高の進路指導部、進路アドバイザーが配置され、進路未定者が大幅に減った。札幌市中

学園ひろば

校内面談 じっくり

三割を超えた進路未定者の社員が巡回、進路指導は、わずか三人と前年の六分の二に、〇五年度も卒業生定数の就職決定者が昨年とほぼ同じに二九人(三月十三日現在)と

けやすいのでは、振替者や職歴についての知識もあり、仕事について具体的な話がでるようだった。

◆教員では限界

同高で効果が上がったことから、市教委は〇五年から他の市内三校の定時制高校にも進路アドバイザーを求めた。元来、要領の低さを雇用されたら、市教委は「教員だけでは進路指導に限界がある。これは、ほかの進路は不可」と話す。

〇五年年度、札幌市立札幌中央勤労青少年ホームの職員が松田孝さん(こは)「社会に出てから、進路を決めるのは、自分たち自身が目標を定めて、進路を自分で決める。進路というものが、下級生の一環の面談になる。子供たちが自信を取り戻すきっかけになれば、アドバイザーの成果は期待している。